

平成 22 年度学校経営計画表

1 学校の現況

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------|-----|------------|-----|------------|-----|--------------|-----|----------------|-----|------------|-----|---------|--------|--------------|------------|---|-----|
| 学校番号 | 特 19 | 学校名 | 県立結城養護学校 | | | | | | | | | | 学校長名 | 小田倉 勝雄 | | | | |
| 教 頭 名 | 宮部 太 | | 谷田部 孝子 | | | | | | | | | | 事務(室)長名 | 水野谷 功 | | | | |
| 教職員数 | 教 諭 | 100 | 養 護 教 諭 | 2 | 常 勤 講 師 | 53 | 非 常 勤 講 師 | 6 | 実 習 講 師・助 手 | 2 | 栄 養 職 員 | 1 | 事 務 職 員 | 4 | 技 術 職 員 等 | 13 | 計 | 181 |
| 児童・ 生徒数 | 部 | 1 年 | | 2 年 | | 3 年 | | 4 年 | | 5 年 | | 6 年 | | 合計 | | 合計 クラス数 | | |
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | | |
| | 小学部 | 24 | 11 | 13 | 2 | 10 | 5 | 18 | 4 | 5 | 4 | 12 | 6 | 82 | 32 | 27 | | |
| | 中学部 | 17 | 11 | 18 | 11 | 21 | 11 | | | | | | | 56 | 33 | 19 | | |
| 高等部 | 36 | 14 | 30 | 22 | 23 | 14 | | | | | | | 89 | 50 | 23 | | | |

2 目指す学校像

児童生徒一人一人が安心して生き生きと主体的に学べる学校
 清潔で整頓された環境の中で、健康で安全に生活できる学校
 保護者、地域住民及び関係者から信頼される開かれた学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

| 項 目 | 現 状 分 析 | 課 題 |
|------|---|--|
| 安全教育 | 年 3 回の避難訓練について、毎回、出火場所を変えて実施した。 さらに、年 1 回の防犯訓練を実施している。 | 災害時の保護者引き取り訓練の実施や環境整備の検討、自主・自力通学生の安全指導をなどが課題である。 |
| 学習指導 | 児童生徒一人一人の教育的ニーズを、実態や家庭の状況を的確に把握し、生きる力の育成を念頭に到達目標を設定し、個別の指導計画に基づく教育の実践に努めることができた。 外部機関との連携としてセラピストを招き、各教科及び自立活動等において指導、助言を頂いた（対象児童生徒13名分）。各担当職員が安心して運動、動作や各種指導を実施できるようになり、教職員の専門性の向上並びに個に応じた指導の充実を図る一助となす事ができた。 | 個別の教育支援計画及び指導計画について、長期目標の設定について、検討中である。また、教育支援計画の作成と活用についても、課題となっている。 特に自立活動に関しては、連携をすすめ、指導内容を充実していく。 |
| 健康教育 | 体育の時間や部活動において、児童・生徒が興味関心を持って、体力の向上、健康の保持増進に努めた。 食育に関する研修会を、職員及び保護者向けに実施し、保護者と担任の連携を図った。 | 児童生徒 320 名中 96 名が肥満であるので、食育の更なる推進、運動量の確保が必要である。 |

| | | |
|------------|--|---|
| 豊かな心の育成 | 特別活動や領域・教科をあわせた指導，日常生活の指導等で，豊かな心を育成できるような指導を進めてきた。 | 道徳の学習で，個々の児童の知的障害の状態や経験等に応じて適切に指導の重点を定め，指導内容を具体化し，豊かな心を育てるように体験的な活動を取り入れるようにしていく。 |
| 交流教育 | 近隣の小・中・高等学校や地域団体との交流活動については，先方からの依頼により小学校8校，中学校1校，高等学校5校，そして，公民館クラブ1団体と実施した（本校への延べ来校者数：1002人）。 | 小学部では今年度から，交流相手の小学校が1校増え，結城市内の全小学校9校と本校小学部の6つの学年との交流となった。児童の実態を考慮しながら，交流を深めていくことが必要である。 |
| 進路指導 | 個別の移行支援計画の改善，就労支援員の配置による実習先の開拓，卒業後の引き継ぎとして福祉相談の実施，福祉マップ，各企業からのメッセージ，親子施設見学，福祉施設説明会の実施などによる情報提供と啓発活動を行った。今年度の卒業生の進路先は，就職者11名，施設入所者6名，施設通所者29名であった。 | 保護者への情報提供及び啓発をすすめ，学部・学年等に対応する計画的・段階的な進路指導の在り方を考えていくことが課題となっている。 |
| センター的機能の推進 | 幼稚園・保育園，小学校，中学校，医療福祉機関及び地教委との連携を深めている。出向教育相談者43名，来校教育相談118名，電話・メール・FAXによる相談は，73件。また，各校教職員に対して特別支援教育の理解啓発を図るべく，学校見学会，研修会（年2回）等を実施した。1回目は就労支援・障害者自立支援法関連で，参加者は34名，2回目は広汎性発達障害児の理解・支援関連で，参加者は216名であった。さらに，域内地教委，自閉症協会，結城市健康増進センター等より依頼を受け，特別支援教育に関する研修会を8件実施した。 | 小中学校では，校内支援体制がさらに充実できるような支援相談を行う。高等学校教職員と一層の連携を図り，発達障害生徒への対応，就労支援等について情報交換をしていく必要がある。 |
| 業務の効率化 | 至急文書と一般文書の区分，個人情報その他の文書の取り扱い等，迅速適正な文書処理と文書管理に努めることができた。 | 勤務時間の変更に対応した計画的な会議の実施，会議時間の効率化が課題である。 |
| 開かれた学校づくり | 来校者・保護者による学校・授業評価をとおして，改善に取り組んでいる。学校案内の作成，ホームページの作成・管理，地域学校新聞の発行を行い開かれた学校づくりに取り組むことができた。 | さらに改善に結びつく評価項目の検討。ホームページの定期的な更新。 |

4 中期的目標

- 1 火災，災害，流行病，犯罪に備えるために，学校内外の環境整備及び条件整備に努める。
- 2 学習指導では，「生きる力の育成」からの長期的な視野で目標を設定し，指導・支援にあたる。また，自立活動や職業などでは，関係機関と連携し，指導内容の充実を図る。
- 3 学校と家庭との連携で，運動量の確保に努め，食育に関して学年で最低年1回は懇談会を行うなどして健康の保持増進に努める。
- 4 道徳における学部間での情報交換，芸術的活動の充実，多様な交流活動をとおして，豊かなこころの育成を推進する。
- 5 進路指導では，児童生徒の卒業後の生活状況を想定し，自律的・主体的に生活することができるような学習や生活指導を推進する。
- 6 域内の学校が，自分たちの力で特別支援教育に関する課題を解決できるような教育相談や支援活動を行う。
- 7 保護者，地域住民及び学校評議員等の外部意見を積極的に聞き，学校経営や教育活動の改善・充実を図るとともに，開かれた学校づくりに努める。

5 本年度の重点目標

| 重点項目 | 重点目標 |
|--------------|---|
| 1 安全安心な学校づくり | 児童生徒及び教職員の事故防止と教材教具や遊具等の保守管理・整備に努める。 緊急時を想定した各種避難訓練の実施と自主・自力 通学生の通学路の安全指導等を計画的に実施する。 |
| 2 生きる力の育成 | 「個別の指導計画」に基づく適切な指導支援と評価を実施する。 「個別の教育支援計画」の作成と活用を図るとともに，検討・改善を進める。 一人一人の可能性を最大限に引き出す指導計画や授業づくりを研究・実践する。 高等部課程別の学級編成及び教育課程を検証しながら実施する。 理学療法士等を活用した自立活動の支援又は社会人講師による職業教育を一層充実する。 |
| 3 体力づくりの推進 | 学部・学年等に応じた体力づくりを進める。 体力づくりとねばり強い気持ちを育てるため，運動部活動等を一層充実する。 |
| 4 豊かな心を育む | 食育に関する指導やアレルギー疾患対応等を研究・実践する。 地域で生きる・育つための，交流及び共同学習や地域交流を一層推進する。 児童生徒の気持ちを上げ高めるため，芸術的活動等を一層推進する。 学校行事や特別活動において，相手を思いやる心や態度を育てる。 |
| 5 進路指導等の推進 | 学部・学年等に対応する計画的・段階的な進路指導を推進する。 キャリア教育の考え方に基づく高等部課程別の職業教育及び進路指導を研究・実践する。(文科省委託研究) |
| 6 センターの機能の推進 | 地域の障害のある乳幼児，児童及び中学校・高等学校生徒に係る相談支援を一層推進する。 地域の関係諸機関との連携を密にした支援ネットワークづくりに努める。 地域の関係者に対し，特別支援教育に関する教育情報の発信を積極的に進める。 |
| 7 協働体制での業務遂行 | 学部・学年又は分掌部門・担当グループにおいて，協働体制による計画的な業務遂行に努める。 勤務時間短縮に伴い会議等の精選，効率化，スリム化を図る。 |
| 8 開かれた学校づくり | 学校自己評価・外部評価及び学校関係者評価委員会を活用し，学校経営や教育活動の改善・充実を図る。 学校行事，学校公開及びホームページ等により，地域住民等への積極的情報提供を行う。 |